すてきな人たち

国際貢献のアジア多国籍医師団

互いに思いやるの心と技

ことし'96年、日本を拠点に世界で活躍する個人や団体の中でもっとも期待され評価されているのがAMDA（アムダ。アジア医師連絡協議会の略称）であろう。'84年8月、日本で学んだアジアの医学生やOBたちに呼びかけ、アジアでの医療救護活動と研修を行うNGO（注）「AMDA」を発足させた。以後、活躍は世界に広がり、エチオピア、ネパール、ブータン、ソマリア、旧ユーゴスラビア、ルワンダ、チェチェン、サハリン、インドネシアなど各地の自然災害や紛争地での難民救援、援助、保健医療などに努めてきた。相互理解、相互支援、相互の幸せを理念に、「良き医療、良き未来」をめざす国際医療NGO・AMDAは、日本の誇りである。

国民のコンセンサスが活動生む

―医師への道は自分で選ばれたのですか

「高校3年の夏休みに、高校の教師だった父が『シュバイツァーも悪くないんじゃあないか』ってポロッと言いましてね。それじゃあ医学部を受けてみるかと…」

―いまAMDA支援の輪が広がってますね

「AMDAも現場に行くだけでなくて、やっぱり支援体制がいるわけです。地元のコンセンサスとか日本国民のコンセンサスがバックにないといい活動ができませんから。その意味で社会的に影響力のある方々にコンセンサスづくりの大きな力を発揮していただき、私たちの活動がやり易くなったのです」

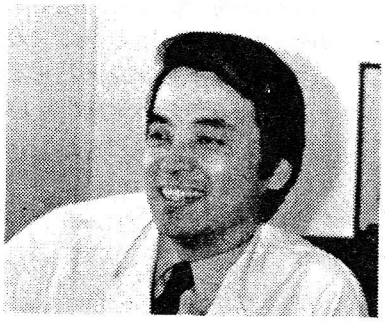
―そこからNGOの評価も出てくるわけで

「今までのNGOの一つの欠点というものはサイレントマジョリティーから遊離していたことですね。これは、任意団体ということと「非政府」であるということからです。それが、阪神大震災でNGOがサイレントマジョリティーの目の前に登場して、ああなるほど役に立つんだなぁーというNGOへの認識が得られたと思うんです」

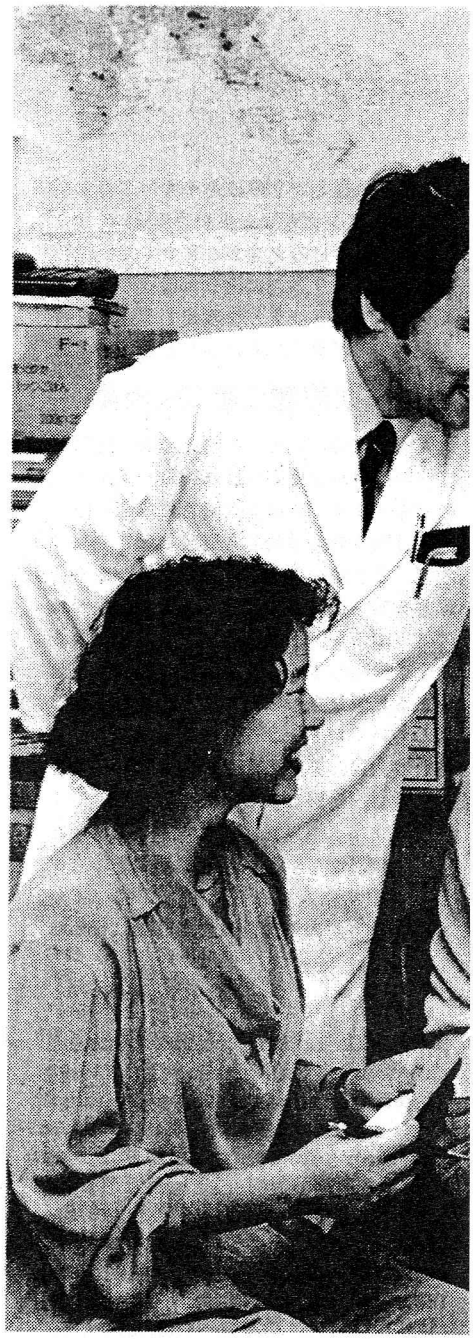
拠点、輸送、通信に人と物と金

'79年12月、菅波医師は2人の日本人医学生と

◉AMDA（アムダ）代表、医師
菅波（すがなみ）茂（しげる）さん



ワン・アワー・インタビュー58



タイのカンボジア難民キャンプへ行って医療NGOの必要性を痛感、組織を発足させた。現在は海外に14支部。会員数は日本に700人、アジア15カ国に200人。'95年6月、日本では初めて国連認定のNGOに登録された。事務局は岡山市楢津310−1。TEL086−284−7730

—日本のNGOをどう見ておられますか

「阪神大震災では全国で約100万人がボランティアとして動きました。若い大学生が受け皿となり、こうした世代の文化パワーを日本の国づくりにどういう風に生かしたらよいかでNPO法案（注）＝市民活動支援法（仮称）案＝ができ、民間パワーをもっともっと認知し育てていこうという動きがでました。これで日本のNGOも法人格が取れ社会的認知をもっと進めることができます」

「日本のNGOは現在、300といわれています。一番多いのが地域開発型で、緊急救援を目的とするのはあまりないんです。地域開発は日本のお家芸です。緊急救援というのはシステムですから、個人個人が善意を持ってやるのとは、ちょっと違うのです。緊急救援には、活動拠点、輸送、通信をどうするかの3原則に加えて、人と物と金をどうするかがあります。短時間にぱっとしなければならない。そして国境を越えるので、国連機関、現地の国家、日本政府への連絡、NGO間の連携が必要で、かなり大がかりなものとなります」

「これからは一国では解決できない地球規模の問題など国連という場で解決しなければならないが、一つは国という単位で、もう一つは政策決定の手足となるNGOが働かなければならないものも多いのです」

多様性の共存は相互扶助から

阪神大震災のときは、発生の夜に早くも第1陣が現地入り、サハリン震災の時もチャーター機で急行した。インドネシア地震では来日していた同国人医師と共に入国、感謝された。'94年10月には7日間以内に災害地入りするネットワークをつくり、'96年3月にはミャンマーの山間地域で浄水装置を稼働させる。

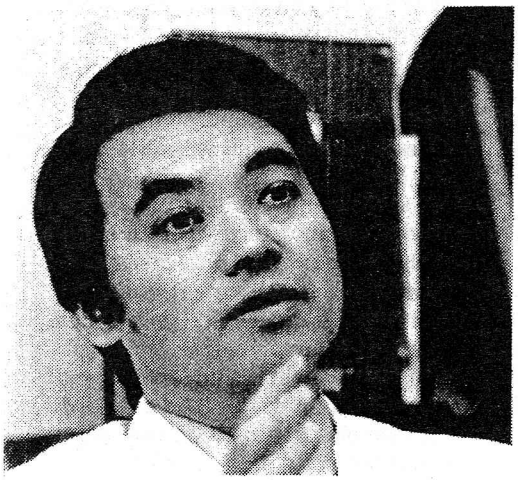
—これからの活動の方向は

「AMDAは、多言語、多文化、多宗教、多民族といったアジア、アフリカの多様性の共存を第一にしているのです。となると、相互扶助という考え方が大切ではないかと考えています。世界で一番問題になっているのは貧困ということです。貧困を解決することで解決できることはいっぱいあるわけです。貧困ということと日常生活のレベルアップは一緒になっているのです。そのために取り組むのに必要なのが相互扶助思想なんです。これは生活の思想なのです」

◇

AMDAはこれまでに「岡山県三木記念賞」「第2回国連ブトロス・ガーリ賞」「毎日国際交流賞」「読売国際協力賞」などを受賞。

（注）NGO（非政府機関、民間活動団体）
NPO（民間非営利組織）
サイレントマジョリティー（声なき大衆）



すがなみ　しげる

1946年広島県生まれ。岡山大学医学部大学院卒（公衆衛生）。医療法人アスカ会理事長。菅波内科医院、老人保健施設すこやか苑理事長。南京中医薬大客員教授。著書「遥かなる夢」共著「ボランティアの時代」編著「とび出せ！AMDA」など。妻と1男2女。

❷